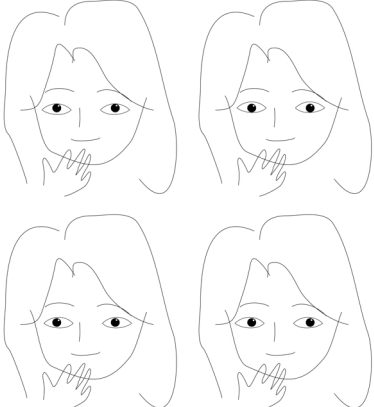


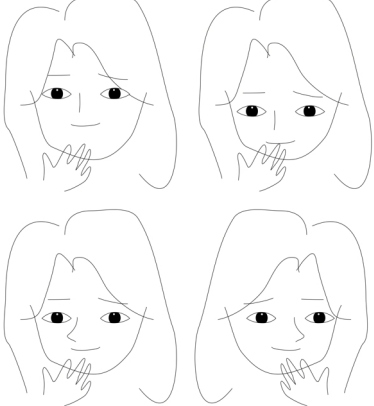
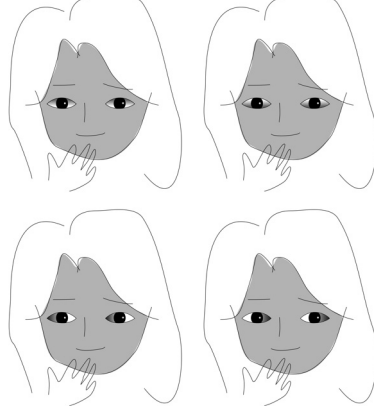


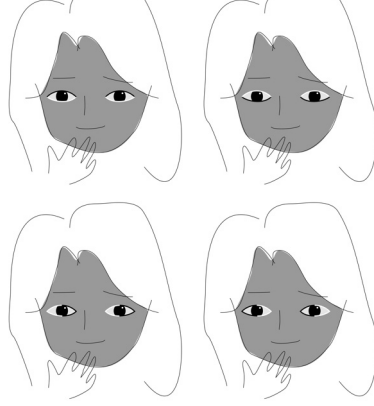
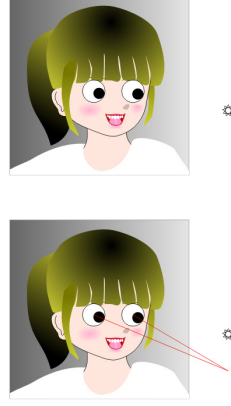


# 視線方向の錯視いろいろ

立命館大学文学部 北岡明佳 (akitaoka@lt.ritsumei.ac.jp)

 <p><b>目の枠の中の黒目の位置の効果</b> 標準の手がかり。本図では、顔の中における黒目の位置は4つとも等しく描いてある。</p>	 <p><b>虹彩の中の瞳孔の位置の効果</b> 瞳孔の方向に視線方向が変位して見える。目の枠の中の黒目の効果よりも強い。</p>	 <p><b>プルキンエ・サンソン像の位置の効果</b> プルキンエ・サンソン像の方向に視線方向が変位して見える。</p>
 <p><b>顔の向きの効果 (ウォラストン錯視)</b> 顔の向きと同方向に視線方向が変位して見える。本図では、両目は4顔とも同じ。</p>	 <p><b>白目の輝度勾配の効果 (充血錯視)</b> 白目の中で輝度の違いがあると、相対的に暗い側に視線方向が変位して見える。</p>	 <p><b>アイシャドーの効果 (対比的効果)</b> 暗いアイシャドーを付けると、反対側に視線方向が変位して見える。</p>
 <p><b>アイシャドーの効果 (同化的効果)</b> 明るいアイシャドーを付けると、同側に視線方向が変位して見える。</p>	 <p><b>アイラインの効果</b> 暗いアイラインを付けると同側に視線方向が変位して見え、明るいアイラインでは反対側に変位して見える。左右に描き分けると逆の効果を得られる。</p>	 <p><b>渡辺錯視</b> 特定の位置関係においては、視線は目の枠の中心と黒目を結ぶ線上からずれて見える。基礎生物学研究所の渡辺英治准教授が2010年に発見。</p>

各効果(右下を除く)とも、左上の顔は上向きの視線に、右上は下向き、左下は向かって左向きの視線に、右下は向かって右向きの視線に相対的に変位して見える。これらの多くは機能的な視覚メカニズムというより錯視なので個人差が大きいようだ。左右の顔で視線方向(上下あるいは左右)が違って見えれば十分錯視が起きていると言える。